

登山月報



ランボ・ピーク (中央 / 6,954m)



8月11日 みんなで山を考えよう!
 祝「山の日」
 全国「山の日」協議会
 山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する

アジアユース選手権 2018 28個のメダル獲得!	2
IFSC-ACC ASIAN CHAMPIONSHIPS 2018 KURAYOSHI, JAPAN	3
第121回 Mountain World	5
新連載 『日山協と私』	6
東京都山岳連盟創立70周年記念祝賀会	7
大分県山岳連盟創立70周年記念祝賀会	7
2018年U I A A及びU A A A総会概要報告	8
第5回海外登山懇談会「旅して登る」クライミング講演会報告	9
平成30年度 登攀技術研修会、主任検定員養成講習会、上級指導員養成講習会報告	11
JMSCA、寄贈図書、表紙のことば、編集後記	12

アジアユース選手権 2018 28個のメダル獲得!

2018年11月1日～4日に中国・重慶でアジアユース選手権が開催されました。8月に行われた世界ユース選手権に出場したユース日本代表選手たちに加えて、JOCジュニアオリンピックカップ2018の各年齢別グループの優勝者が新たに入り、総勢23名で大会に臨みました。結果は、金メダル11個、銀メダル8個、銅メダル9個の計28個を獲得し、昨年以上の快進撃を見せてくれ、全種目において他国に競技力の高さ、層の厚さを見せつけることができました。

●ジュニア (1999 - 2000年生)

男子は、ボルダリングは全員果敢に挑んだものの、地元選手のPan YuFeiに阻まれ金メダルを逃しましたが、リードでは今大会からユース日本代表として加わった本間大晴が予選・決勝全てで完登し、見事優勝を収めました。一方、女子の勢いはとどまることを知らず、高田こころがリードで優勝、ボルダリングでは中村真緒が優勝し、森脇ほの佳、西田朱李も粘りの登りを見せ、兩種目で表彰台を独占しました。

●ユースA (2001 - 2002年生)

男子は、小西桂がボルダリングで唯一全完登し優勝、リードでも世界ユースで優勝した西田秀聖が安定の登りで唯一完登し優勝を決めました。今大会から選考され国際大会初出場の大政涼は、3種目で上位に入るマルチな才能を見せチームに貢献しました。

ユースAも女子の勢いがとまらず、今大会から加わった平野夏海がリード・ボルダリング兩種目で優勝し二冠を達成。ボルダリングでは、優勝と僅差で2, 3位に入った菊地咲希、栗田湖有で表彰台を独占、リードでは栗田が3位に入りました。



日本チーム集合写真

●ユースB (2003 - 2004年生)

男子は、川又玲瑛、抜井亮瑛、前田健太郎、吉田智音の4名がボルダリングで1～4位を独占。吉田は国際大会初出場ながら、リードで余裕の登りを見せて完登し優勝しました。また最終日のスピードでは、抜井が公式国際大会で日本人初優勝を決め、スピードでは勝てないムードが漂っていたチームに勢いをもたらしてくれました。

女子は、谷井菜月がボルダリングで唯一全完登し優勝。リードでは、森秋彩と谷井が優勝争いに食い込みましたが、惜しくもTopのホールドを掴み損ね、唯一完投した韓国のSeo Chaehyunに優勝を譲り、2, 3位に入りました。

昨年度からアジアユース選手権におけるチーム目標は、全ての年齢別グループで金メダルをとることでした。昨年度達成したからには、今年もその目標値は落とせないということでスタッフたちと身の引き締まる思いで今大会に臨みましたが、そんな私たちの思いとは裏腹に、選手たちはのびのびと最大限のパフォーマンスを発揮してくれて、目標をはるかに上回る多くの「年齢別グループで表彰台を独占」することができました。これは偏に、これまでの選手たちの努力や才能、個々に出す雰囲気やチームの士気を高めてくれた結果だと思っています。(記 西谷善子)



表彰台を独占

IFSC-ACC ASIAN CHAMPIONSHIPS 2018 KURAYOSHI, JAPAN

期 日：2018年11月7日(水)～11日(日)

会 場：鳥取県立倉吉体育文化会館・倉吉スポーツ
ライミングセンター

日本でのアジア選手権は、富山大会(2002年)以来16年ぶりの開催となった。今回は、オリンピック種目のコンバインドを加えての4種目。コンバインドは、世界ユース、世界選手権で行われており、今回で3回目となる。ボルダリング、リードは日本が独占。そこに、韓国、中国が入り込む形となった。5つの金メダルを含む15個のメダルを獲得した。スピードはインドネシアが独占状態となった。残念なのは、イランのRezaALIPOURSHENA(世界記録保持者5秒48)がフライングで失格となったこと。



今回のコンバインドのタイムスケジュールはオリンピックに近い内容で実施。

コンバインドは、各種目の成績をポイントとして乗り、値の少ない6名が出場。最終日11日、男子からスタートした。

Point Rank	Nation	Name	Speed Point	Bouldering			Lead		Point	
				TOP ZONE		Point	高度	Point		LxBxS
				At.	At.					
1	JPN	榑崎 明智	2	4T4Z	11	10	1	34+	2	4
2	JPN	杉本 怜	1	3T4Z	6	12	2	33+	4	8
3	CHN	PAN YuFei	4	2T4Z	8	20	5	35+	1	20
4	JPN	藤井 快	5	3T3Z	8	6	3	33+	3	45
5	HKG	CHAN Cheung ChiShoji	3	1T2Z	2	3	6	32+	5	90
6	JPN	高田 知堯	6	3T3Z	9	8	4	29+	6	144

今年のインスブルックで開催された世界選手権では、選手がコンバインドにターゲットを絞ってきた感が強く、最初のスピードで躓き、そのまま挽回できずメダルを逃した。

今回それを踏まえてか、各種目、無駄やミスなくオリンピックに向けて常に戦い方を高めてきている感じが伝わってきた。

スピードは、この種目ではトップの選手が出場しない



ため混戦模様。敗者復活から対戦相手がミスを犯し着実に登った杉本が1位となった。ボルダリングは、単種目でも優勝している榑崎が完登で1位。第3課題が終わった時点で3完登が4人。最終課題での勝負となった。最終課題は、2段階のジャンプでトラバース気味に行くムーブ。各選手が登れない中、榑崎が長いリーチを生かして登りきる。

そしてリードでは中国のPANが35+で1位となるが、スピード、リードともに2位に付けている榑崎が優勝を勝ち取った。

女子のコンバインドは、前日のリード決勝を欠場した野中がスピード1位で好スタート。野口は4位となったがボルダリング、リードともに1位となり優勝を勝ち取った。特に圧巻だったのはリードの完登。体力の消耗をなくすためか、かなりのスピーディな登りだ。これを行うためにはオブザベーションでのムーブの正確な読み、ミスのない登りが必要だ。昨日のリード単種目の優勝を勝ち取ったKIMも同様のパフォーマンスだった。コンバインドの戦い方が確立されてきたと感じる。

Point Rank	Nation	Name	Speed Point	Bouldering			Lead		Point	
				TOP ZONE		Point	高度	Point		LxBxS
				At.	At.					
1	JPN	野口 啓代	4	4T4Z	6	5	1	TOP	1	4
2	JPN	野中 生萌	1	3T4Z	3	5	2	26+	5	10
3	JPN	伊藤ふたば	3	3T3Z	10	8	3	32	2	18
4	KOR	SA Sol	2	1T3Z	1	6	5	28+	3	30
5	KOR	KIM Jain	5	1T3Z	1	7	6	27	4	120
6	IRI	REKABI Elnaz	6	2T4Z	9	6	4	24+	6	144

今回のコンバインドではIFSCの結果システムが正しく作動しないところも見られた。TV中継への懸念もあった何とかカバーはできた。ACCの理解も十分出ないところもあり、競技前に動作の確認が必要だが設



選手 12、Teamofficial15、Media40、VIP 15

運営面では、会場はユースボルダリングでも使用している倉吉の文化会館。ボルダー壁とリード壁を直角に配置した。種目の切替で椅子の向きを変えるなどスタッフの対応は開催期間（5日間）も含めと苦労も多かった。そのおかげで運営に当たっては、ACCより日本での開催は自分たちが動かなくてできるなど高い評価があった。選手、観客が満足できる大会だったと感じる。

改めて関係機関、スポンサー、スタッフ含めこの大会に関わったみな様に感謝を申し上げます。

そして、今後の選手のパフォーマンスを高めるためにもスピードジャパンカップは必須。早急に開催を検討したい。（記 実行委員長村岡正己）

計会社との連絡体制も必要と感じた。

【データ】

参加：14ヶ国と地域（カンボジア、中国、ホンコン、インドネシア、インド、イラン、日本、カザフスタン、韓国、マカオ、フィリピン、シンガポール、タイ、台湾）

選手：117人（男子68人、女子49人）

入場：11月7日 898人

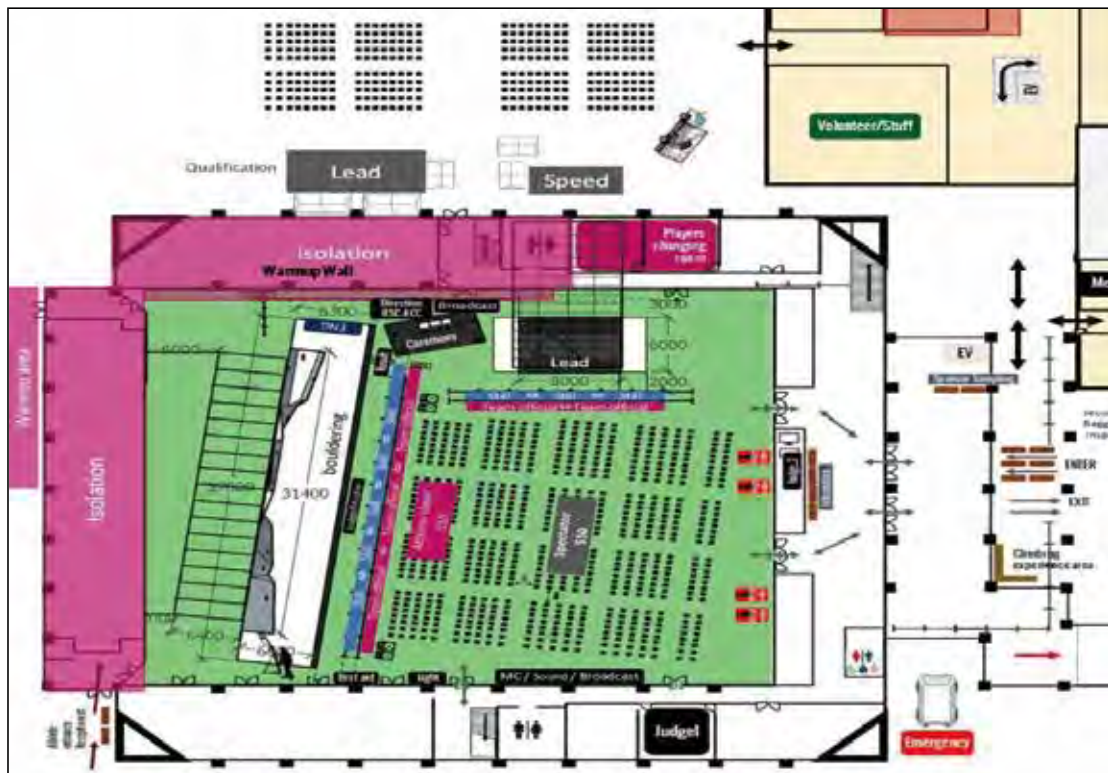
11月8日 437人

11月9日 670人

11月10日 1,596人

11月11日 1,596人

* 11日 屋内スピード710、アリーナ804、



第121回 Mountain World

ダーフィット・ラマ 未踏峰をソロ

池田常道

この連載の12回目、2009年11月号に、「6000～7000 m峰に注目せよ」と題して、脱8000 m登山の魅力をお伝えしたのをご記憶だろうか。そのとき取り上げたなかに、チベット・ネパール国境のルーナク山群があった。ロールワーリン・ヒマールのメンルン・ラからナンパ・ラへと続く稜線上に連なる6500～6900 m級のピーク6座から成る。

この山群を初めて狙ったのは2009年春、ロールワーリン・ヒマールを訪れたジョー・ピュリヤーとデヴィッド・ゴットリーブ(米)で、カン・ナチュゴ(6736 m)に初登頂した余勢を駆って最高峰ルーナク I 峰(ルーナク・リ、6907 mまたは6895 m)を目指した。当時は未解禁峰だったが、国境から東へ約1 km張り出した支尾根の先にあるジョボ・リンジャン(Jobo Rinjang、6778 m)に初登頂し、支尾根を縦走してルーナク I 峰に取り付こうともくろんだものの、頂上にテントを張った翌日、雪庇をまとった支尾根を渡って国境に近づくすべがなく、敗退した。翌年にはフランスのマックス・ベルヴィーユ、マチュー・デトリ、マチュー・メイナディエが挑んだが、別ルートから南東峰(6812 m)に登ったところで終わっていた。

ところで、ネ政府の許可峰リストにJobo Rinjangはなく、載っているのはチベット側のチョー・オユーBCの西に位置するJobo Ribzang(6666 m)だった。ピュリヤーは、これを逆手にとってJobo Ribzangの名前で申請して許可を得たのだった。なお、ピュリヤーは翌年ラブチェ・カンで転落死。その遺志を継いだゴットリーブは2013年、チャド・ケログ(米)と組んでルーナク I 峰を試みたが、ケログがジョボ・リンジャン第2登を果たすに留まった。この年はスコット・アダムソンとクリス・ライト(米)がルーナク西峰(リトル・ルーナク、6507 m)に初登頂している。

*

前置きが長くなってしまったが、このルーナク I 峰は去る10月25日、オーストリアのダーフィット・ラマ(28)によって初登頂された。ラマにとっては3回目の挑戦だった。2015年秋、コンラッド・アンカー(米)と二人で西稜から挑み、頂上まで300 mを残して敗退

に終わった。翌16年の再挑戦では54歳になっていたアンカーが、5800 m地点で心臓に異状を訴えて中止、ABCからヘリで搬出された。残されたラマは西稜に出る別ルートを採って単独挑戦を試みたものの、頂上まで250 mに迫ったところで限界を感じて断念した。

そして今回、アンカーは年齢と健康を勘案して辞退し、ラマが単独で挑むことになった。「前回(16年)は単独でやる覚悟ができていなかったが、今回は、アンカーに代わるパートナーを探すより単独で挑むことを選んだ」とラマは言う。

10月23日深夜にBCを出たラマは、落石・落氷の危険がある区間を夜間登攀して6400 m地点で最初のビバークに入った。今季は前2回とちがって積雪が少なかったため、暗闇にもかかわらずミックス壁をスピーディに進むことができた。

昼間はそこで休養して翌早朝4時に出るつもりだったが、強風が治まるまでさらに2時間待機した。6時に出発すると、陽光の恩恵で寒気もやわらぎ、前回の到達点を超える6800 mで2回目のビバーク。頂上に立ったのは翌日午前10時だった。最後の部分は、オーバーハングした岩に乗った微妙な雪面であることはドローンからの映像で分かっていたので、できるだけ中央部をたどるように気を付けたという。

ラマはかつてパタゴニアのセロ・トーレ(3102 m)南東稜をフリー初登攀しているが、当時はマエストリのボルト撤去問題や、ラマ自身のラップボルト宣言が登攀界の反発を買うなど、純粋に冒険を楽しむ環境ではなかった。今回のソロは、そんな雑音なしに没頭できたというラマは語っている。



デリケートな頂上に近づくラマ
写真はドローンを使って撮影されたもの



新連載 ～創立60周年に向けて～(7)

『日山協と私』

愛媛県山岳連盟顧問 西田 六助

全日本登山大会に関わって

2003(平成15)年7月19日、国体山岳競技四国ブロック会終了後の役員会で日山協理事の高知県会長より、第44回(平成17年)の全国登山体育大会を四国で実施して欲しいとの連絡を受ける。高知県・香川県は開催していて、徳島県は諸般の事情で開催できない、愛媛でお願いしたいとの要望あり、持ち帰って検討させていただきますとの返事をした。

時間がない、この年(平成15)は1ヶ月後の8月に長野県白馬山系で行われる。先催県の視察も視察員としての申し込みは間にあわない。この大会には愛媛県から何名か参加の予定であり、岳連役員は青木顧問、事務局、西田の3名が行くことになっていて、全日登山を前提とした心つもりで参加。

その後、正式に愛媛での大会要請があり、今まで開催していないので引き受けなくてはどの思いがしており、私の頭の中にはすでにコースが描かれていたのです。そして理事会で承認を受け動きだしたのが、年が改まってからであった。

日程は高校の先生たちが比較的動きやすい8月末に、コースは6コース設定し、金曜は開会式後、街中で宿泊、土曜は全員山小屋宿泊、日曜は午前中に下山して閉会式の案とした。コースの中に当初、石鎚山北壁の登攀を入れていましたが、石鎚神社のご神体でもあり遠慮してもらえないかということもあって急遽、一般路ではない東稜(岩稜が続く)から山頂小屋宿泊に変更し、もう一つ観光トレッキングコースを追加しました。



聖杖の引き継ぎ・・・報告書から

前年の第43回東京大会は奥多摩地域で行われ、私たちは雲取山に登り、下山して東京都山岳連盟会長の森谷重二郎氏より聖杖を受け、引き継ぎが行われた。終了後浅草へ出て、ドジョウの店に行ったところ偶然にも森谷会長さん一行と出会ったのでした

第44回愛媛大会では準備委員会数回、実行委員会7回。運営委員会13回と実施して本番を迎えた。

平成17年8月、開会式当日、前夜の台風の影響でJRが動かず行きませんという連絡が茨城県より入り、また2日目の山行第1報はC隊がクロスズメバチの大群に襲われ、一人が集中的に被害を受け、救急車で病院へ。11ヶ所も刺されていた。他は数カ所刺された方が数名いたとの報告を受けた。

閉会式では聖杖を、田中文男会長を介して次期開催県福島県吉田元(はじめ)会長さんに引き継いだ。森谷さん、吉田さん共に鬼籍に入られていて、吉田さんとは福島大会の折にはお世話になり、この後もお会いすることがありましたが、カラコルム遠征の訓練中、倒れてそのまま息を引き取ったのですよと聞かされ非常に残念な思いをしました。

平成18年第45回福島大会 吾妻山系から閉会式の後、安達太郎山へ。

平成19年第46回山口大会では秋吉台から秋芳洞を巡る。愛媛県から12名が参加。



山口大会龍護峰 愛媛県参加者
注：参加者の写真 左に青木顧問、右前 西田

平成20年第47回北海道大会では、愛媛県の青木顧問を介して日本山岳文化学会大森薫雄会長から「故郷の山」の企画があるので入会して執筆してくださいとの依頼があり、入会することにした。

閉会式の挨拶で、北海道岳連鎌田会長から「皆さんは北海道のこの季節の天候を昨日は1日で体験してもらいました。即ち朝は雨が降り、そのうち晴れて来て展望もありましたが、正午頃からはガスがまき、下山する

時は風が強く雹が降ってきました」と。その翌年、この山系で大きな山岳事故が発生したのです。

私もできるだけ毎年参加したかったのですが、10月末は、里の秋祭りで代々続く大きな役目があり参加できず、参与会で「日程を固定しないで欲しい・・・」とこのことを言った覚えがあります。

平成23年第50回福岡大会 英彦山からカルスト台地の平尾台へ。

平成26年第53回は一巡して四国徳島大会で、阿波踊りで歓迎してもらった。

平成27年第54回宮城県大会は栗駒山中心での開催で丁度10回目の参加となった。開会式にやっと間にあい、着席して隣の方に「愛媛県の西田といいます、難聴です、もし名前を呼ばれたら知らせてください」と言っておいた。

壇上に上がることができ、八木原会長より10回参加の賞状を渡してもらった。

翌日の山行では八木原会長と一緒にの班で天候に恵まれ栗駒山の素晴らしい秋色に彩られた山域を歩くことができたのです。夜の交流会は鳴子温泉である。元会長の坂口さん、今回主管県の吉田さん、東京の本木さん、佐藤さんなどをはじめ、全国の山仲間と出会うことができ、至福のひと時を過ごすことができました。

翌日のツアーは、Aコース：南三陸復興応援にエントリー、参加者は40名ほど、このツアーに参加したのは、私の元勤務先の宇和島水産高校実習船「えひめ丸」



栗駒山をバックに 前から3人目八木原会長

の機関長を永年、勤めていた方が三陸町志津川塩入に住まいしていて、震災後音信不通になり、一度行ってみたいとの望みがあったのです。到着してプレハブのポータルセンターで聞いてみると、塩入地区は全て津波にさらわれ何もなくなったのですと写真を見せてもらい、この辺ですと言われてみると、海岸に近く、きれいな更地に見えた。その近くに鉄骨になった建物があったが、これから行く「防災対策センター」であった。

平成28年第55回島根大会は三瓶山を中心に行われ、交流会では石見神楽の出し物があり、須佐之男命による八岐大蛇退治が催され絶賛を浴びた。

これらも都道府県持ち回りで実施しているので、参加することにより各県での有名な自然や文化に触れることができ有難く思っています。83歳になり難聴ですができれば再度チャレンジしたいものです。

東京都山岳連盟創立70周年記念祝賀会

創立70周年記念祝賀会が、11月10日(土)に東京・アルカディア市ヶ谷で開催された。当日は、ソウル特別市山岳連盟代表団をはじめ加盟団体など250名を超える参加者で賑わった。現在、加盟団体数185団体。個人会員597名。



大分県山岳連盟創立70周年記念祝賀会

創立70周年記念祝賀会が、11月17日(土)に大分県九重町・筋湯温泉で開催され、翌日は九重連山展望の山・涌蓋山の記念登山。平成20年大分国体から山岳競技はスポーツライミングとなり10周年。大分岳連の底力と深い歴史を実感した記念行事でした。

(副会長 伊藤克己)



2018年UIAA及びUAAA総会概要報告

UIAA総会、UAAA総会は共にモンゴルの首都ウランバートルで行われた。以下はその概要の報告である。

モンゴルには3つの山岳組織があり、今回はMNC F (Mongolian National Climbing Federation) /モンゴル国立クライミング連盟がホストであった。

I UIAA総会

日時 10月6日(土) 8:30~11:20

場所 ウランバートル コーポレートホテル

A. 34ヶ国から100人以上の代表が出席し、会議は成立した。議長はE B (執行理事) であるP F (Peter Farkas) が行った。歓迎のあいさつはモンゴルの環境観光旅行 (Environment and Tourism) 大臣であるTserenbat Namsrai氏、及びMNC Fの会長のTulga Buya氏が行った。UIAA会長報告はF V (Frits Vrijlandt) が行った。

結論から記すと、P F以下E B各委員曰く「これまでになく順調に議事が進行した」との総括があったほど、いくつか瑣末な質問があったものの特筆すべき議論もなく、すべての議題に反対票がひとつも提示されることなく承認された。

E Bは今までになく、特に予算決算に関して詳細な分析を行い、それを様々な角度から円グラフにして示し、総会の承認を大過なく得ようという努力が伺えた。その結果、唯一来年度予算案に関しては保留が4票入ったものの、逆説的に、白紙委任を避ける意味でも総会が健全に機能している事実の担保となったと言える。なお正確な数字に関してはUIAAのホームページにすべて公表されるのでだれでも確認可能である。

B. 今回は一部E Bの入れ替えがあった。P FとM B (Marc Beverly) が退任し、新たにP M (Peter Muir) がE Bに選任された。従ってE Bの構成はP Mを迎え、会長のF V、事務局長のH D (Hélène Denis)、戦略担当のT K (Thomas Kähr) そして中国の王勇峰 (Wang Yongfeng) の合計5人となった。元々経理担当としてイタリアのP G (Pier Georgio) がいたが既にC A I (イタリア山岳会) が今年いっぱいUIAAを退会することになっており早めに辞任していた。F Vはオランダ、H Dはフランス、T Kはスイス、P Mはカナダ、そして王は中国の所属である。

C. 何ともあっけない形ではあるが総会は終了した。し

かし、E Bからは会員の意見を幅広く拾い上げたいという意向があり、そのための議論の場が午後に設定された。これまでになくスムーズに議事が進行したため、ランチ・ブレイクが長く取られた。まず戦略担当T Kの司会で「ワールドカフェ」スタイルの議論の場となった。ここではUIAAが抱えている執行運営上の方針を4つの質問に集約した上で、ひとつの質問に対し2つのテーブルを用意し、1回のセッションに25分間を割り当て、各参加者は4回のセッションで4問すべての議論に参加して回るというスタイルであった。質問とは以下の4問である。

1. 「UIAAの存在意義はどこにあるのか？」
2. 「UIAAからどのような恩恵を受けていると思うか？ UIAAはどのような恩恵をメンバーに提供すべきか？」
3. 「UIAAの活動はどこに焦点を当てるべきか？ UIAAを世界中で認知してもらうにはどのような活動が効果的だと考えるか？」
4. 「現在の会費は納得できる額になっているか？ メンバー団体はUIAAのプロジェクトを支援する用意があるか？」

議論の結果は短く集約されて紹介されたが、これはブレインストーミングの要素が強く、何かを決定するための議論ではないため、戦略担当から今後の執行に関して各委員会にフィードバックされることとなる。

この「ワールドカフェ」の後は、「ワールドマーケット」方式となり、9に分かれた各委員会、各担当のテーブルを参加者が回って必要な情報を得るというスタイルで展開された。(9テーマは「山の自然保護」、「アイスクライミング」、「青少年プログラム」、「コミュニケーション」、「トレーニングスタンダード」、「登山」、「安全」、「アクセス問題」、「*スカイランニング」) これにより、特別な関心を抱く代表たちがそれぞれのテーブルで熱心に情報収集する姿が18時過ぎまで見られた。

D. 以前はドイツ山岳会が退会し、その後4、5年前に



UAAA総会の記念写真

復帰している。今年はC A Iが年内一杯で退会となる
ことが決まっている。しかし、会場の内でも外でもこの
話は話題に上らなかった。私の方で登山委員会の委員
長を務めているClaudio(C A I所属)に話をもちかけた
が、退会理由としては、E Bのマネジメントがよくな
いなど従来の主張が繰り返されただけであった。C A
Iの会長が今年になって変わったことも理由の1つと
言っている人もいる。

来年の総会は予定通りキプロスに決まった。10月の
予定である。理事会は5月2日～5日であるが、マルタ
かベルンの予定である。

(註)国際スカイランニング連盟はユニットとしてU I
A Aに加盟している。トレイルランニングとは考え方が
違うという理念がある。

II U A A A総会

日時 10月8日(月) 9:30～16:20

場所 ウランバートル コーポレートホテル

A. U I A Aと同様にM N C F会長のTulga Buya,氏が
歓迎のあいさつを、U A A AのIng Jeon Lee氏も挨拶
をおこなった。オブザーバーとしてU I A AのT K
が参加した。また王勇峰が参加したが、これはU A A A
の副会長国としての参加と思われる。この人の参加は
珍しい。

司会はいつもの様にU A A A事務局長のChristine
Pae氏である。参加は9ヶ国14連盟、合計35人であ
った。議事の中でM N C Fがフルメンバーとして承認さ
れたため、最終的には10ヶ国15連盟の参加となる。欠
席はK A C(キルギス山岳会)とA C P(パキスタン山
岳会)であった。C H K M C U(中華香港クライミン
グユニオン)は参加したが、監査役でC H K M C Uの
Frederickは欠席であり、文書にて会計は問題なしとの
報告を送ってきた。因みに会計はC T M A(中華台北健
行登山協会)のHank氏である。

B. 例年通り加盟各団体が各々の活動報告というこ
とで夫々報告を行った。この報告が時間の多くを費やす
ことになる。日山協としての報告の中で昨年の遭難件
数の紹介を行った。3,000件を超す遭難があり、300
人を超す人が亡くなったり行方不明だと言ったら王氏
が再度確認してきた。このようなデータがあるのが珍
しいのか、多いと思っているのか真意はよくわからな
かったが敢えて確認はしなかった。

C. 各連盟の報告の中でカザフスタンのカズベクが岩
登りフェスティバルについての提案を行った。実は今年
の5月にカザフスタンで行ったカウンスル会議の時に



U A A A総会の記念写真

八木原会長を交えてカズベクとこの構想について熱っ
ぽく議論したことを覚えている。今回も同様に多くの
参加者から賛同の意見があった。どの国も事情は同じ
で結果として提案通り2019年の8月末から9月初めに
かけてフェスティバルを開催することになった。場所は
アロマトイというカザフスタンの都市にあり車で20～
30分くらいの場所にある岩場である。岩登りだけでな
く、歌・音楽なども織り込みたいとのこと。同様にネ
パールにおいてもU A A Aピークに4月にexpedition
ということで約1か月の期間で開催する。

来年、2019年はU A A A創立25周年である。カウ
ンシル会議は台北でC T M Aがホストとなり、6月1日
～5日に亘り、C T M A創立50周年記念事業と同時期
に行われる。総会はK A Cとなっている。時期は未定
である。(記 小野寺 齊)

第5回海外登山懇談会

「旅して登る」クライミング講演会報告

11月15日(木)19時から21時にかけて、代々木公園・
国立オリンピック記念青少年総合センターのセンター
棟80人室において第5回海外登山懇談会を開催致し
た。

この懇談会は、次代を担う若手クライマーにワンコ
インで第一線で活躍する著名クライマーの有意義な体験
談を聞いて未来に夢膨らませて貰おうという主旨です。

今回のテーマは「旅して登る」クライミング講演会、
辺境のクライミングと高所登山におけるボルダリング
をその楽しさと効用、魅力と新しいゲレンデの発見開拓
情報をお二人の講師にご披露頂きました。参加者は27
名と少なく予想外、広報の仕方を考えさせられる結果と
なった。

国際委員会副委員長の鈴木百合子女史の司会進行に
より、まずは八木原会長の挨拶、東京オリンピックを前
にスポーツクライミングは開設ジムが600箇所迫る勢

いで人気沸騰、男女アスリートもワールドカップ、世界選手権で大活躍だが、本来の山登りであるアルパイン部門は海外遠征登山がメッキリ減りチョットおとなし過ぎると活性化を促す檄を飛ばされました。

最初の講師はけんじりこと小阪健一郎さんの「旅して辺クラ」というタイトルで、クライミングから沢登りに目覚め、ゴルジェ突破、大滝登攀、離島登攀など極めてマニアックな登攀巡礼の旅を語って頂きました。小阪氏は兵庫県明石市市民病院で研修医として活躍する現役医師、ロクスノ誌上に辺クラ連載中でご存知のファンも多数と聞きます。そもそも、氏は医学生時代に山スキーを楽しもうと山を始めたものの、医学生のためにまともな山登りが出来ず、クライミングジム通いと沢登りをするうちにゴルジェ登攀の魅力に嵌り、新しいゲレンデを求めて地形図片手に発見開拓する辺境の旅が始まったとのこと。絶海孤島の岩壁に瀬渡し、シュノーケルを使って泳いで取付くなどルート開拓への執念を感じさせる話ばかり、その行動範囲、北は利尻島、奥尻島、南は甌島、五島列島と未知なる壁とゴルジェを求めての旅の一步は、良く「地図を見る」ことから始まるとの話に登山の原点を教えられた。

続いてジャンボさんこと横山勝丘氏による「僻地におけるボルダリングと高所登山への効果」でお話頂いた。

横山氏は皆さんご承知の通り現役バリバリのピオレドールクライマー。その活動エリアはヒマラヤ、アラスカ、アンデス、パタゴニアと地球規模で広く、ここ数年はパタゴニア開拓に取り組んでいる。

持論の「見つけて、準備して、トライ」する登山プロセスは、周到な計画から実践へとアルパインクライミング論を口火に、ボルダー（石ころ）を登る行為は、手軽かつ発見して開拓する喜びがあり、誰もいないロケーションでピュアなクライミングが楽しめる。

自分の場合、高所順応は脈拍で順応を決めており、ボルダーを見つけたら大地を整備して極力長いルートを



横山勝丘講師

拓くことで身体に大きな負荷をかけ順応できる。持論の「見つけて、考えて、登る」ツールがボルダリングで、高所登山では自分の足で歩いてボルダーを見つけ、薄い空気の中で身体を慣らしながらルートを拓いて登る楽しさ、面白さは格別で可能性を無限大に広げてくれる。ボルダーも高峰登山も登るといふ行為そのものは変わらないとアルパインボルダリング論を披露頂きました。今年親子揃ってご家族で4ヶ月間にわたるクライミングトリップをパタゴニアで楽しんだそうです。

自然の山を駆け巡るアルパイン、人工壁を登る競技スポーツのスポーツクライミングに加えて、身近な海山にボルダーを見つけて登るボルダリングも登山の新たな範疇というジャンボ登山論を聞いた気がする楽しい講演であった。

講演後居酒屋に繰り出して二人のスピーカーを囲み、ジョッキ、盃を片手に話足りなかった山への熱い思いをつまみに大いに盛り上がった一夕であった。

(国際委員会委員 落合正治)



小阪健一郎講師



K7遠征時のボルダリング

愛知県開催 平成30年度 登攀技術研修会、主任検定員養成講習会、 上級指導員養成講習会報告

平成30年10月27日(土)～28日(日)

愛知県・南山の岩場(女岩)・暮らしの杜クライミングジムにおいて登攀技術研修会および主任検定員養成講習会、上級指導員養成講習会が開催された。

今回は研修4名、A級主任検定6名、上級指導員養成講習9名、講師6名、愛知県スタッフ6名の計31名での開催となった。開催場所の暮らしの杜クライミングジムには山岳壁があり、天気によらず取り組める、環境の整った施設でした。

また、スタッフの愛知県山岳連盟の方々には、多大なご協力をいただきました。改めて感謝申し上げます。

以下に参加者の代表の感想を掲載いたします。

(記：指導委員会 野村)

A級主任検定員養成講習会に参加して 愛知県山岳連盟 GSA 石川まゆみ

春の良き日JMSCA主任検定員養成講習会を、私の地元愛知県で開催されるという朗報を耳にし、早速申し込ませていただきました。

10月27日～28日の2日間充実した内容の講習を受講でき実り多い勉強ができました。中でも大変参考となった一つをご紹介します。

登攀技術におけるビレイヤーの自己脱出の方法です。私が10年前上級指導員を取得した頃愛知岳連の確保・救助講習会で教えていたビレイヤーの自己脱出方法から、現在まで何回となく検証しながら少しずつ変更を繰り返している現状です。

今回指導委員会で教えていただいた方法は、結びの種類が少なく手順も最小ですっきりしていました。たださえ事故や救助は普通の山行でほとんど経験することが無い為、講習会・研修会でしか使わない技術になりがちです。だからこそ簡単で解りやすく覚えやす



机上講習

い、さらにスピーディーな方法が最良に思います。今回得た技術を愛知県で展開させていただきます。

JMSCAの指導委員会・遭対委員会では、毎年貴重な各講習会・研修会を開催していただいております。実施されるまでの計画・準備等かなりなご苦労かと想像し、感謝しております。こういった地道な活動が、新たな登山人口を広げ安全登山を心掛ける登山人口を増やしていけると信じております。私も微力ですがもっと成長して活動に協力できればと考えております。

この度全国レベルの会を愛知で開催され参加できた幸運に感謝せざるを得ません、JMSCAの講師の方々大変お世話になりました。ありがとうございました。

上級指導員養成研修会に参加して 愛知県山岳連盟 浦川陽子

まずは最初に、遠方にも関わらず愛知へ来て下さったJMSCAの講師の皆様、そして、お世話係として



参加者一同



南山の岩場

準備段階から東奔西走して下さった愛知岳連の役員の皆様、そして、全国から集まってみえた研修生の皆様、2日間、お世話になり本当にありがとうございました。

1日目の自己脱出では、何度もやっていることなのに、自分のやり方とは少し方向が変わるだけ、結びが違っただけでスムーズにできない。つまり、ちゃんと理解しておらず応用が利かない自分に気づかされました。

一番のカルチャーショックは、アンカー構築でした。支点が脆いところやアイスクライミングの時は固定分散にしていたけれど、ゲレンデの岩場で強固なボルトの場合は、今まで何の疑問に思うことなく流動分散でした。これからは、推奨して下さった固定分散+流動分散のアンカー構築することにします。

そして、何よりもよかったのが、情報交換会という名の夜の飲み会。その場に集まった人達で指導者としての視点、経験上からの視点、その他諸々こんなに熱い討論になるとは！熱くなりすぎて自己紹介が先にすまない(笑)。

皆さんの熱い御意見をうかがっていて感じたのは、結局は経験を積むことに尽きるということ、そして引き出しを多くして状況に応じて判断、自分自身やパートナー達の力量に合わせたやり方を選択していくことだと思いました。

今回の研修会を通して、ブラッシュアップの必要性を感じ、もっと知識や技術を深めていきたい。そして、できるだけ多くの皆さんにもぜひ参加してほしいと思いました。

2019年 新春懇談会

恒例の新春懇談会を下記の通り開催いたします。

日 時 2019年1月12日(土)
表 彰 式：11時15分～12時15分
新春懇談会：13時～15時
会 場 アルカディア市ヶ谷
会 費 1万円

スリランカ最大の聖地アダムス・ピークに登頂し、4つの世界遺産を巡る旅

聖山アダムス・ピーク登頂と スリランカの4つの世界遺産 8日間

発着地 東京・大阪・名古屋・福岡 旅行代金 298,000円

出発日 2/11(月)・2/25(月)・3/11(月)

※燃油サーチャージ(2018年11月20日現在：目安約17,000円)が別途必要です。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員/ポンド保証会員



ALPINE ツア サービス 株式会社

本社 〒105-0004 東京都港区新橋3-2-5(第5東洋海事ビル4階) ☎03-3503-1911

大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557

e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

『山と溪谷』1000号感謝の会

11月13日(火)に東京・アルカディア市ヶ谷で『山と溪谷』1000号感謝の会が開催された。

インプレスグループで山岳・自然分野のメディア事業を手がける株式会社山と溪谷社が刊行する月刊誌『山と溪谷』は、1930(昭和5)年に刊行されてから今年7月14日発売の8月号で創刊1000号を迎えた。

感謝の会には、88年もの長い間『山と溪谷』を支えてきた登山者、山岳カメラマン、山小屋のご主人、登山用具専門店・メーカー、書店それに歴代の編集担当者など大勢の人が来場され1000号記念をお祝いした。

隔月号として誕生した『山と溪谷』は、戦時中、政府の指示で雑誌統合となり、『山とスキー』の母体誌となった。84号で一時休刊したが、戦後1946年に月刊誌として再出発して今日に至っている。



挨拶する八木原会長

JMSCA

平成30年度11月
常務理事会報告

日 時 平成30年10月25日(木)
場 所 岸記念体育会館・4階特別会議室
出席者 八木原会長、亀山・高橋・伊藤・平山各副会長、尾形専務理事、小野寺、水島、相良、村岡、合田、小日向、仙石、蛭田、町田の各常務理事、中畠、古屋監事(17名中17名出席)
同席者 西原国体委員長

1. 議 事

- (1)平成30年度9月常務理事会・議事録の承認について(事前送付済)
異議なく承認された。
- (2)国体山岳競技規程、国体常任委員について
国体山岳競技をIFルールに準拠していく。競技規程の改廃は、常務理事会とすることで了承。
常任委員については、次年度から会議方法も検討しながら選出する。
- (3)平成30年度上期事業報告(案)について
一部訂正の上、理事会に提出することで承認。
- (4)平成31年度事業及び予算編成方針(案)について
一部訂正の上、理事会に提出することで承認。
- (5)役員選考規程の改定について
- (6)役員候補者選考委員会規程について
次回理事会に以下の提案をすることで承認。
①臨時理事会で提案された第3案の全廃案を15名中13名賛成で採択。
②全廃して、常務理事を少なくし、常務理事会をなくして理

事会として開催。

- ④理事の定員は現状のままにして、理事会にて承認された役員候補者選考委員会にて理事・監事候補者を選任し、常務理事会経由で理事会に諮り、総会にて選任を決議する。
- ④理事候補者は加盟団体、学識経験者、会長候補者などから推薦される。
- ⑤提案内容についても一部訂正を行い理事会に提案することで承認された。
- (7)第2次補正予算について
アジア選手権倉吉大会の収支13,475千円の補正が承認。
- (8)J S P O 次期評議員、理事候補者の推薦について
評議員は尾形専務理事を続投推薦することで承認。理事候補者は推薦しない。
- (9)アジア選手権代表者の変更について
加嶋智子、尾上彩、廣重幸紀3選手の欠場と栗田湖有選手の追加出場が、異議なく承認された。

2. 報告事項

- (1)平成30年度上期会計報告について
相良常務理事より報告があった。
- (2)平成30年度上期業務・会計中間監査報告について
古屋監事より報告があった。
- (3)平成30年度日山協山岳共済会上期業務・会計中間監査報告について
尾形専務理事と古屋監事より報告があった。
- (4)J M S C A メンバー制度について
小野寺常務理事から報告があった。
- (5)国体不参加の件について
上記議事(2)で報告済。
- (6)2019年の日程について
小野寺常務理事から報告があった。
- (7)税務調査の件
来週の29日(月)～30日(火)に税務調査が入る。
- (8)東京2020の壁のレガシーについて
東京都に対してNFとして国際大会開催可能、アジア地域の拠点になるものを要望している。
- (9)I F S C の状況
CMAの状況報告とI F S C の2028年までのロードマップについて。

- (10)レスキュー講習会(積雪期)開催要項について
町田常務理事から開催要項について説明があった。

3. 指導員・審判員 検定結果報告

- ・山岳上級指導員申請
多田純一(愛知)異議なく承認。

4. 後援報告、協賛等の依頼について

- (1)神奈川県民登山後援承認について
- (2)広島比婆国際スカイラン後援承認
上記2件は、異議なく承認。

5. 専門委員会動静 10月

(1)国際委員会

- 10月10日(水) 岸記念体育会館 常任委員8名、4名委任

ア) 報告事項

- ・キルギス「Mountain Spirit 2018」のレーニン峰に登頂した波多腰耕弥氏(東京農大探検部)から帰国挨拶

イ) 協議事項

- ①海外登山懇談会「旅して登る」について(11/15(木)19:00～オリセン(セー304))
- ②来年度の海登研・総会の会場について
- ③国際委員会の今後の活動について

J M S C A の国際委員会として、今後の日本の登山界に何ができるか、何をすべきか。ブレインストーミングの結果、国際にこだわる必要はないとの意見もあり。国内でも優れた登山を支援したい。競技登山、健康登山、商業登山とは違う本物の登山を支援したい。

- 委員会名を変えると委員の意識も変わる。ではどんな名前ならいいか、アルパインクライミング委員会、アルピニズム委員会、登山委員会、山岳文化委員会、先鋭登山委員会などの意見あり。

(2)マーケティング委員会

- 10月10日(水) S-GATE 赤坂 常任委員4名

ア) 報告事項

- ①メディアコミュニケーション関連
・リリース配信実績について
・取材対応
- ②マーケティング関連
・J M S C A スポンサー関係

ブロンズパートナーとして日新火災とニチハが新規決定。

- ・2019年シーズンスポンサーについて
- ・アブルーバル関係(3件)
- ・アフロ関係(別紙参照)

イ) 協議事項

- ①メディアコミュニケーション関連
・リリース予定
- ②マーケティング関連
・動画有料化について
- ゴールド、シルバースポンサーが使用可能
- J M S C A が制作する映像を利用する(スカイAが撮影、J M S C A に映像の権利があるもの)
- あくまでも大会の風景として使用する国内大会は選手が個人の所属で参加している為、個人が特定できる映像はJ M S C A として許可しない。
- 使用できる秒数は10秒以内とする。(要検討)
- 使用料の取り決めをつくる
詳細は、放映権契約者の博報堂D Y メディアパートナーズに一任
- ウ) スケジュール関連について

6. その他の重要事項

- 10月12日～10月24日
- (1)全国山岳遭難対策協議会幹事会 10月12日(金) 於:スポーツ庁 廣川事務局員
- (2)東京2020大会に向けた情報提供、意見交換 10月12日(金) 於:NTC 小野寺常務理事
- (3)国立登山研修所「登山研修」編集委員会 10月12日 於:J S C 尾形専務理事
- (4)石鎚クライミングパーク「スピード壁」落成式 10月13日(土)～14日(日) 於:西条市 八木原会長、村岡常務理事
- (5)平成30年度上期会計 公認会計士確認 10月17日(水)、18日(木) 於:事務局 立元会計士 尾形専務理事、相良、小野寺常務理事
- (6)平成30年度上期業務会計監査への確認 10月19日又は22日 於:事務局 中畠監事、尾形専務理事、相良、小野寺常務理事
- (7)山の文化 in Fukushima

寄贈図書

広報誌	日本トレーニング指導者協会	JATI vol.67
雑誌	(株)山と溪谷	「山と溪谷」No.1004
	(株)ネイチャーエンタープライズ	「岳人」No.858
	FEEC	「VERTEX」280
報告書	兵庫県豊岡市	植村直己冒険賞 報告書
	愛知県山岳連盟	愛知岳連ニュース 第430号
会報	中華民国山岳協會	「中華山岳」《雙月刊》267
	兵庫県山岳連盟	兵庫山岳 第617号
	埼玉県山岳連盟	埼玉岳連 第62号
	愛知県山岳連盟	愛知岳連ニュース 第430号、やまびこ 第179号
	日本万歩クラブ	帰れ事前へアルク
	東京野歩路会	「山嶺」VOL.96 NO.1065
	おいらく山岳会	山行手帖 No.708
	新潟県山岳協会	新山協ニュース 第339号



編集後記

師走の2日、岳連仲間と丹沢四十八瀬川二俣にある「尾関廣の銅像」を訪問した。銅像は昭和45年5月に全国の山岳連盟の登山家等の有志により、彼の功績を残すために作られたと聞いている。ついでに登山訓練所の跡地を訪ねた。尾関さんの尽力により日本で最初に出来た登山研修施設である。植林されているが石垣に残置された鉄ピナを見つけ当時を思う。昔に戻ることは出来ないが振り返ることも必要かと年の瀬に思う。来年こそ減遭難でありますように。

(広報担当 水島彰治)

表紙のことは

ランポ・ピーク(北峰6,954m、南峰6,852m)は、ジョンサン・ピークからカンチェンジュンガに向かって南下する国境稜線上の山で、カンチェンジュンガの北北東17kmに位置する。山名のランポは、東麓の谷の名前からきており、レブチャ語で「牝牛」の意。

1909年秋、A. M. ケラスがシッキム側からジョンサン・ラを越えてネパールに入り、9月13日にギンサン氷河から西ランポ氷河をつめて、ランポ・ラに登ったが、吹雪で撤退させられた。翌日、ケラスはランポ・ピークとランポ・チュン・カンの中のコル(ケラスはランポ・ギャップと命名)にキャンプし、翌15日に一人のポーターとランポ・ピーク(北峰)の初登頂に成功。

(写真撮影者・尾形好雄)

登山月報 第597号

定価 110円(送料別)
 予約年間 1,300円(送料共)
 昭和45年12月12日
 第三種郵便物認可
 (毎月1回15日発行)
 発行日 平成30年12月15日
 発行者 東京都渋谷区神南1-1-1
 岸記念体育会館内
 公益社団法人
 日本山岳・スポーツクライミング協会
 電話 03-3481-2396
 F A X 03-3481-2395

- 10月21日(日) 於：白河市産業プラザ人材育成センター 尾形専務理事
 (8)平成30年度上期業務会計監査
 10月23日(火) 於：岸記念体育会館4F特別室 内藤監事、中島監事、古屋監事、尾形専務、相良、小野寺常務理事
 (9)雪崩防災週間実行委員会
 10月24日(水) 於：中央合同庁舎第3号館 尾形専務理事
 (10)スポーツ実施率向上のための行動計画等に関する説明会 10月25日(木) 於：岸記念体育会館 小野寺常務理事

【お詫びと訂正】

本誌596号の11頁左最下行の「第1案1名」は、「第1案2名」の誤りでした。お詫びして訂正します。

一般財団法人 日本トレイルランニング協会

〒252-0184
 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
 ☎042-687-4011 FAX 042-687-3980
 E-mail kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

NPO法人 北丹沢山岳センター

神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会
 事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp
 ・北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
 ・陣馬山トレイルレース実行委員会
 ・道志村トレイルレース実行委員会
 ・八重山トレイルレース実行委員会
 ・東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会
 ・上野原秋山トレイルレース実行委員会
 大会々長 杉本憲昭

山岳
 雑誌

岳人

がくじん
 山と人、時代をつなぐ「岳人」

1月号
 発売中

【特集】年末年始の山

★モンベルのウェブサイト
 全国のモンベルストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 価格815円(+税)



年間購読がおすすすめです。

購読割引 送料無料 限定品プレゼント

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常本体価格12冊 年間購読なら12冊
~~9,780円~~ (+税) → **8,965円** (+税)
 1年間で815円
 1冊分無料!

年間購読特典 岳人オリジナルグッズをプレゼント!

岳人
 ミニワレット
 (2個セット)
 サイズ:9×10cm
 ※カラーはお選びいただけません

さらに
 ご継続の方に
 はじめて
 お申し込みの方に
 岳人ピンバッジ
 特製
 マガジンBOX

年間購読の
 お申し込み

WEB <https://www.gakujin.jp/>

全国のモンベルストア
 でも受付中!

お問い合わせ

モンベル
 ポスト

0120-982-682 / TEL 06-6538-5797
 ※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

あなたを守る。
あしたを作る。
三井住友海上

損害保険と聞いて、
なにを思い浮かべますか？

ケガ、災害、事故…日々の中で起こりうるリスクをカバーする。それは私たち三井住友海上の重要な任務ですが、すべてではありません。たとえば同じ自動車保険でも、暮らしの変化や自動車の進化を見つめて改善を続けること、宇宙開発や再生医療など、まだ世界にない保険を新しく作ることで社会の前進をサポートすることも、とても大切な役割です。変わらない一日に寄り添い、より豊かな明日を実現したい。だから私たちは、守ることと作ること、その両方を繰り返しながら前へ歩み続けます。

みつ い すみ とも かい じょう
三井住友海上
時空保険
探査部
Space-time Insurance
Exploration Department

人類にとっての
損害保険の
必要性を調査。

時空を超える
ゲート。

社員証をかざせば
タイムワープ。

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上



山岳保険の加入は 登山者のマナーです

あなたの山岳保険は大丈夫ですか？

- 傷害死亡・後遺障害
- 救援者費用
- 傷害通院費用
- 個人賠償責任
- 遭難捜索費用
- 傷害入院費用
- 傷害手術費用

日山協 山岳共済会 〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。
公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会
携帯サイト (www.jma-sangaku.or.jp/mobile/)



WEBからもお申込みいただけます (www.sangakukyousai.com)